えがおプレス

No. 3

R7. 7. 24

「いのちの授業」を通して

校長　高田　篤志

７月３日、５・６年生を対象にした「いのち授業」が行われました。

講師として、南砺市内の小学校で学習支援員をしておられる松下真由美先生をお迎えし、ご自身の体験談をお話していただきました。脳に障害をもって産まれたお子さんの「あらちゃん」との日常生活の様子や、その経験から得られた「いのち」に対する松下先生の思いをお聞きしました。子供たちは、自分としてこの世に生まれ、これまで順調に育ってきたことがいかにありがたいことか、そしてそのいただいた「いのち」をこれからも大切にしていかなければならないことなど、たくさんのことを学ぶことができました。松下先生からは、子供たちからの感想や学ぶ姿から最後に「こんなに真剣に受け止めてくれた子供たちは初めてです。とてもうれしく思います。」との言葉をいただきました。

「いのち」は、自分の貴重なたった一つのもの、自分まで受け継がれてきて、これからもつながり続ける尊いもの、周りの人にとっても、自分と同じように奇跡的に誕生し育ってきた唯一無二の大事なものです。子供たちには、今回の学びを生かし、自分の「いのち」を大切にできる人に、その自分の「いのち」をしっかりと生き抜く人に、そして周囲の方々との出会いやつながりに感謝し、周りの人も自分と同じように大切にできる人に育ってほしいものです。

子供たちの感想から

○　ぼくは、今日の授業で、生きていることは当たり前ではないんだなと思いました。なぜなら、ぼくが生まれるまでは、十代前でも千人以上の人たちが命をつないでくれて、今のぼくがあることが分かったからです。時々、自分が失敗をして悲しい気持ちや、何かを言われていやな気持ちになることがあるけれど、それも大事な経験なんだなと思えるようになりました。これからも、自分がしていることを当たり前のことと思わず、周りの人に感謝をして生きていきたいと思いました。

○　今日の授業で、命の大切さを学びました。これまで当たり前だと思っていた、ごはんを食べること、呼吸をすることも、ありがたいことだと分かりました。病気などで苦しい思いをしていて、自分ではできない人がいると分かったからです。このことから、いつもしている一つ一つの行動に感謝をしたいと思いました。命の重さを改めて知ることができたし、みんなが自由に動ける体で誕生しているわけではないことも分かりました。不自由なく産んでもらえたことに感謝をしたいです。

○　命は大切だと知ってはいたけれど、今日の松下先生の話を聞いて、子供をどれだけ大切に思っておられたか、かわいがっておられたかがよく伝わってきて、命の大切さをさらに感じることができました。最後に、あらちゃんが天国にいってしまったことを知ってびっくりしました。手術をすれば助かると思っていたからです。命は一しゅんでなくなってしまいます。生きていることが当たり前ではないことを、今日の授業から学びました。